

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(202 .12)令和 年度:

,

女性特有のがん検診の受診行動に関わる要因の文献検討

大西珠希、台丸谷彩愛、林愛香
(指導：塩川幸子)

<緒言>

日本では1981年からはがんによる死亡が第1位となりがん検診による早期発見・早期治療の重要性は高い。日本はがん対策推進基本計画においてがん検診受診率50%以上を目標に掲げている¹⁾が2016年度国民生活基礎調査のがん検診受診率は約30~50%と目標は達成できていない²⁾。

先行研究から乳がん検診の未受診理由に健康への自信から必要性を感じない、時間がない等が報告されている³⁾。子宮頸がん検診の未受診理由は検診への抵抗感・羞恥心、費用がかかる、時間がない等⁴⁾が挙げられ、特に大学生対象の研究では子宮頸がんの知識や関心不足が受診率の低下につながっている⁵⁾。

本研究では、女性特有のがん検診(子宮頸がん検診・乳がん検診)の受診行動に関わる要因を包括的に明らかにすることを目的とし、女性のがん検診受診率向上のための示唆を得る。

<用語の定義>

1) 女性特有のがん: 厚生労働省が女性特有のがん対策の推奨に掲げる子宮頸がんと乳がんを示す⁷⁾。

<方法>

研究対象: 医中誌webを使用し検索した。「乳がん検診」「受診行動」では46件、「子宮頸がん検診」「受診行動」では48件、「がん検診」「女性」「受診行動」では138件ヒットした(検索日:2021年4月22日)。検索した文献の抄録を概観し、受診行動に影響する要因を述べており研究対象が医療従事者を除いた27件を選定した。さらに、対象が学生と60歳以降のみの文献を除き勤労世代の一般女性に絞り、研究内容が限定的なものを除いた2010年以降の17文献を対象とした。

分析方法: グレグら⁸⁾の質的記述的研究の方法を参考に分析した。3名の研究者で対象文献を熟読し、乳がん検診、子宮頸がん検診について、受診行動の促進要因・阻害要因を示す内容をそれぞれコード化し、意味内容の類似性からサブカテゴリを抽出した。さらに、促進要因と阻害要因を対比しながら相違点・共通点を分析し、女性特有のがん検診としてカテゴリ、コアカテゴリに抽象度を上げて集約した。分析は3名の研究者で繰り返し検討し、質的研究者の助言を得た。

倫理的配慮: 本研究は先行研究に基づく文献検討である。著作権の範囲内で使用し、出典を明示した。

<結果>

17文献から促進要因サブカテゴリ36、阻害要因サブカテゴリ27を抽出し、促進要因と阻害要因を対比して9カテゴリ、2コアカテゴリに集約された(表1)。以下、コアカテゴリ【】、カテゴリ<>、サブカテゴリ「」で示す。

女性のがん検診の受診行動に影響する要因は【受診のきっかけと条件】、【健康意識と保健行動】の2コアカテゴリに集約された。

表1 女性特有のがん検診の受診行動に関わる要因

コアカテゴリ	カテゴリ	サブカテゴリ		文献数
		促進要因 (36)	阻害要因 (27)	
受診のきっかけと条件	検診対象としての受診動機	対象年齢である	対象年齢ではない	3
		検診の義務化	受診機会がない	1
受診の条件	検診の案内が届く		妊娠・出産・子育てに伴い受診のタイミングがない	2
				6
周囲の影響	周囲の勧め	身近な人の受診行動	話題にしづらく関心を持つ機会がない	10
			周囲との同調行動	4
受診の費用・時間・場所	無料クーポンや検診費用の助成	費用負担感		10
		受診のための時間調整	時間的制約	6
受診の費用・時間・場所	身近な場所での検診		多忙で出向くのが負担	2
		医療機関での検診		1
受診の費用・時間・場所	面談			6
				4
女性の検診受診をサポートする環境	働く女性のための職場検診の整備	検診を受けやすい職場の雰囲気がない		4
		子どもを連れていける検診		2
検診への抵抗感	公的な検診枠の拡充			1
		検診への抵抗感が少ない	検診への抵抗感がある	8
検診への抵抗感	産婦人科への行きづらさ			3
		女性医師による検診	男性医師への抵抗感	5
検診への抵抗感	羞恥心を最小限に留める配慮		検診に伴う羞恥心	2
		検査に伴う痛み軽減	検査に伴う痛みへの抵抗感	1
検診への抵抗感	検査の分かりやすい説明		過去の不快な検診体験	2
				4
検診の具体的な情報	検診の内容や仕組みに関する情報	検診システムや内容が分からない		1
		検診場所に関する情報	検診場所に関する情報が分からない	1
検診の具体的な情報	検診費用に関する情報		検診費用に関する情報が分からない	1
		身近な場所で情報が得られる		5
健康意識と保健行動	職場での情報提供			1
		症状・治療・予防に関する知識がある	がんに関する知識不足	4
健康意識と保健行動	自己検診をしている		自己検診がない	5
		早期発見のメリットに関する認識	検診の必要性を見出せない	2
健康意識と保健行動	他者の経験談			3
		がんへの恐怖・不安	がん発見への恐怖・不安	3
健康意識と保健行動	がん罹患の危機感		がん罹患の危機感のうすさ	5
		若年で罹患する可能性・リスク		1
健康意識と保健行動	身近に罹患者がいる			5
		検診を受けているという安心感		1
健康的な健康への関心と交流	健康状態が良好	心身の状態が悪い		1
		自己効力感が高い	自己効力感が低い	2
健康的な健康への関心と交流	自分の健康や身体への関心			5
		他者とのつながりがある	地域の活動への参加がない	1

<考察>

1. 検診受診のきっかけづくりと条件の整備

1) 受診のきっかけづくり

<検診対象としての受診動機>として、促進要因では「対象年齢である」「検診の案内が届く」、阻害要因では「受診機会がない」が抽出された。専業主婦や大学生等、対象年齢であっても検診の案内が個別に届かない場合は、検診対象であることを意識しにくく、受診機会を逃す可能性がある。また、阻害要因の「妊娠・出産・子育てに伴い受診のタイミングがない」は、妊娠・出産・子育てによる身体的、時間的制約からがん検診が優先されにくいと考えられた。

<周囲の影響>として、促進要因では「周囲の勧め」が、阻害要因では「話題にしづらく関心を持つ機会がない」が抽出された。他者の勧めは検診受診行動の促進要因であるが、女性特有のがん検診は羞恥心を伴うため身近な人同士でも話題にしづらく、受診意欲の共有に繋がりにくいと考えられる。

2) 受診しやすい条件の整備と後押しする環境づくり

<受診の費用・時間・場所>の促進・阻害要因がともに最も多かった。促進要因では「無料クーポンや検診費用の助成」、阻害要因では「費用負担感」が抽出された。無料化は男性より女性、過去に受診歴がある人より未受診者で有意に受診動機になった⁹⁾とされ、無料

クーポンは未受診者の受診率向上の一助になる。また、「時間的制約」「多忙で出向くのが負担」「面倒」に対しては、休日も含めた実施日時や時期・場所の検討、セット検診等の工夫が求められる。

＜女性の検診受診をサポートする環境＞の促進要因では「働く女性のための職場検診の整備」「子どもを連れていける検診」、阻害要因は「検診を受けやすい職場の雰囲気がない」が抽出され、働く女性が検診受診を考えていても職場環境の影響は大きい。働く女性や子育て中の女性が検診受診の後押しを受けられること、託児や子どもを預ける場所の確保が必要である。

3) 検診に対する抵抗感の軽減と情報提供

＜検診への抵抗感＞として、促進要因は「女性医師による検診」、阻害要因は「検診に伴う羞恥心」「検査に伴う痛みへの抵抗感」が抽出された。女性特有の検診は羞恥心を伴うため、検診に関わる医療者には女性の配置が必要である。医師が女性であることで心理的負担が和らぎ、継続受診にも繋がることを期待される。

＜検診の具体的な情報＞に、促進要因は「身近な場所で情報が得られる」、阻害要因は「検診システムや内容がわからない」等が抽出され、検診情報が様々な面で得られるシステムづくりが求められる。情報を項目立ててわかりやすく提示し、検診に関わる不安を軽減し受診行動を促進する必要がある。

2. がんの理解と健康意識への働きかけ

1) がんの早期発見の重要性の啓発

＜早期発見の意識と行動＞として、促進要因には「自覚症状がある」、「早期発見のメリットに関する認識」、「他者の経験談」、阻害要因は「自覚症状がない」「検診の必要性を見出せない」が抽出された。がん検診受診率向上だけでなく死亡率低下には自覚症状がない段階で検診を受ける重要性の周知が必要¹⁰⁾とされ、ピンクリボン運動に加え企業や自治会等に対し無症状の段階で検診を受ける早期発見の重要性の啓発が必要である。がん教育は学生時代から開始¹¹⁾されつつあり、がんの初期症状や自覚症状、がん予防の知識を得る対策のさらなる推進が望まれる。

＜がんの恐怖と危機感＞として、促進要因は「がんへの恐怖・不安」、「がん罹患の危機感」、「身近に罹患者がいる」、阻害要因では「がん発見への恐怖・不安」「がん罹患の危機感のうすさ」が抽出された。がん罹患の恐怖から受診する人とがんの発見への不安から受診しない人がいる。がんへの恐怖心・危機感促進・阻害どちらにも作用する可能性が示唆された。がんへの恐怖は個別状況に合わせた支援が必要と考える。

2) 健康全般への意識と地域との交流の促進

＜日常的な健康への関心と交流＞として、促進要因は「自分の健康や身体への関心」「自己効力感が高い」、阻害要因は「心身の状態が悪い」「地域の活動への参加がない」が抽出された。健康全般への意識や自己効力感の高さ、日頃の保健行動が検診受診の基盤になる。地域活動への参加がないことで周囲の影響を受ける機会が少なく、受診のきっかけを逃す可能性も考えられる。人々の健康意識に働きかけ、保健行動を促す環境づくりががん検診受診の促進の一助となることが示唆された。

＜結論＞

女性特有のがん検診の受診行動に関わる要因について、受診のきっかけや条件、女性の検診受診をサポートする環境整備、人々の保健行動を促す必要性が示された。今後は女性特有のがん検診に行きやすい環境と検診受診行動の関連の検討が必要である。

対象文献

- (1)大飼早苗,二宮一枝(2010):マンモグラフィを併用した乳がん検診の受診行動に関わる認知的要因,日本公衆衛生雑誌,57(9):796-806.
- (2)大川聡子,根来佐由美,和泉京子,他(2013):乳がん検診・自己触診法の意識を高める啓発活動一年齢差に着目して,大阪府立大学看護学部紀要,19(1):1-10.
- (3)坂佳奈子,小野良樹,広松恭子,他(2013):日本のすみずみまで乳癌検診を東京における乳がん検診の現状と問題点ーがん検診に関する意識調査より,日本乳癌検診学会誌,22(1):31-36.
- (4)林直子,鈴木久美,今輩倍真紀,他(2015):子育て期の女性および乳がん検診経験者が考える乳がん検診の受診を促進する要点,保健の科学,57(8):567-573.
- (5)河田志帆,畑下博世(2015):若年女性労働者に対する産業保健活動の検討 20歳代女性労働者のヘルスリテラシーとライフイベントおよび子宮頸がん検診受診行動との関連,日本公衆衛生看護学会誌,4(1):41-47.
- (6)河合由紀,中西伸子(2018):勤労更年期女性の乳がん検診に関連する要因,奈良県立医科大学医学部看護学科紀要,14:45-56.
- (7)池田智子(2020):一般住民における乳がん検診受診行動の実態-受診意図を踏まえた定期受診不定期受診,未受診の特徴,母性衛生,60(4):551-559.
- (8)田中登美,森島千都子(2020):就労・母親世代の一般女性の乳がんに対する認識およびその検診の受診行動に影響する要因,奈良県立医科大学医学部看護学科紀要,16:11-20.
- (9)森田葉月,今松友紀,藤田美江,他(2020):乳がん検診の受診行動を規定する要因に関する文献検討,創価大学看護学部紀要,5:19-31.
- (10)清水かすみ,石田貞代,花田富美子,他(2013):成人女性の子宮頸がん検診に関する認知の検討ー定期受診行動と認知の関連,日本健康医学学会雑誌,21(4):261-267.
- (11)岡村絹代,中越利佳,則松良明(2013):20歳代勤労女性の子宮頸がん検診受診行動と関連要因の検討,四国公衆衛生学会雑誌,58(1):152-159.
- (12)中越利佳,岡村絹代,則松良明(2013):20歳代勤労女性の子宮頸がん検診受診行動変容ステージと関連要因ーリプロダクティブヘルス意識・セクシャリティとの関連性から,母性衛生,54(1):164-172.
- (13)岡村絹代,中越利佳,則松良明,他(2012):愛媛県内における勤労女性の子宮頸がん検診受診の現状と課題,愛媛県立医療技術大学紀要,9(1):23-29.
- (14)岩崎和代,齋藤益子,木村好秀(2013):子宮頸がん検診率に影響を与える女性の意識,女性心身医学,18(2):225-233.
- (15)恒松美輪子,川崎裕美,升岡優子,他(2014):コンジョイント分析を用いた子宮頸がん検診受診行動の決定に影響する要因分析,厚生指標,61(12):13-19.
- (16)中村和代,渡邊香織(2015):子宮頸がん検診の受診行動への影響因子と受診率向上に向けた取り組みに関する文献検討,人間看護学研究,(13):51-57.
- (17)井上福江,原理恵,濱田維子(2015):未婚で未産の20歳代女性の子宮頸がん検診を受診するまでのプロセス,母性衛生,56(2):301-310.

引用文献

- 1)厚生労働省:国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針。(2020年9月22日閲覧 https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/kenkoujippon21_01.pdf)
- 2)厚生労働省:平成28年国民生活基礎調査の概況,III世帯員の健康状況(2020年9月22日閲覧 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kytyosa/k/tyosa16/dl/04.pdf>)
- 3)坂佳奈子,小野良樹,広松恭子,他(2013):日本のすみずみまで乳癌検診を東京における乳がん検診の現状と問題点ーがん検診に関する意識調査より,日本乳癌検診学会誌,22(1):31-36.
- 4)中村和代,渡邊香織(2015):子宮頸がん検診の受診行動への影響因子と受診率向上に向けた取り組みに関する文献検討,人間看護学研究,(13):51-57.
- 5)田中千春,国府浩子(2012):若年者の子宮頸がん検診に関する知識と思い,日本がん看護学会誌,26(2):35-44.
- 6)井上福江,濱田維子,田中佳代(2013):文系大学的女子学生における子宮頸がん検診に対する行動探択と影響因子ー子宮頸がん検診にかかわる意識調査,母性衛生,54(1):200-209.
- 7)厚生労働省:がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針,(2021年4月24日閲覧, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900001-Kenkoukyoku/0000111662.pdf>)
- 8)グレッグ美鈴,麻原きよみ,横山美江(2016):よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして,第2版,医歯薬出版.
- 9)菅原彰一,松田徹(2013):働く世代のがん検診未受診者対策の有効性,日本公衆衛生,60(7):396-402.
- 10)平光良充(2010):がん検診の受診行動に関する調査,名古屋市衛研報,56,15-17.
- 11)中木龍夫,小川勝成(2010):広島県における高校保健体育教育の中での子宮頸がん検診啓発活動の実践,医学検査,59(10),1183-1187.